

NPO いきいきまちだ 10周年記念誌

～自然もいきいき人もいきいき～

2013.6



NPO いきいきまちだ

<http://www.ikiikimachida.com/>

NPO いきいきまちだ 10周年記念誌目次

NPO設立10周年を迎えて	2
設立趣旨	4
特定非営利活動法人いきいきまちだのスタートにあたって	5
地域の人々に支えられて迎えた10周年	7
10周年を迎えて会員のひとこと	10
炭焼き	13
炭焼き窯づくり奮闘記	15
農業活動	16
イベントへの参加	18
子どもたちへの働きかけ	20
拠点づくり	22
JOB	24
その他	25
今後の活動について、会員アンケート	28
年表	30
思い出の写真集	36
自然と伝統に触れる	50
健康は自然からの贈りもの	51
安らぎの里山・里地を目指して	53

NPO設立10周年を迎えて

NPOいきいきまちだ 会長 向井弘善

1. 10周年を祝う

NPOいきいきまちだはこの5月30日でNPO認証10周年を迎えます。今年度の定期総会の席で皆様と共に素直に祝福し喜び合いたいと思います。里山・里地の保全という地味な分野で、ボランティア活動を中心とした財政基盤の弱い私たちの活動が10年間も続けられたのは60名を超えるメンバー各位の努力と協力の賜物であり、さらに私達を受け入れ手厚い支援と協力をして頂いた地域社会の皆様方のお陰だと誠に感謝に耐えません。

任意団体として竹の伐採と竹炭づくりから始まった活動は公園管理事業、農業関連事業へと拡大し途中遺跡関連事業の受託などを経て伝統文化こども教室などのイベント事業も本格化し、大型の公共事業を受託できるようになって今日の日を迎えることが出来ました。

2. 10年を振り返って

主な項目を振り返ってみると古賀竹林や石阪竹林はNPO認証前からのおつきあいであり未だに竹炭づくりの源泉になっています。さくらまつりは平成15年4月から出店しております。田中谷戸の畠へおじゃまするようになったのは平成15年7月頃からです。雑木林管理講習会への講師派遣は平成16年2月から受託していますので今年で10回目を終えたことになります。

埋蔵文化財調査資料づくりに汗を流したのは平成17年の1～3月です。

田中谷戸の炭焼き窯が完成したのは平成19年2月であり、竹の家の改装を終えたのは同年6月のことです。

平成19年7月から4年間は伝統文化こども教室を開き小学生の子供達と自然の中で楽しく遊びました。

蛸の里づくりは平成21年から着手し、始めて蛸が飛び交う光景に感激したものです。

仕事面では、平成16年頃から竹の伐採（成瀬、三輪など）を皮切りに公園除草、公園管理、公園排水清掃などと続きますが最大の業務受託は平成21年から3年間続いた雇用創出事業としての公園排水清掃業務です。

これらのイベントや業務受託を経てNPOいきいきまちだは大きく成長し、NPOとして継続できる基盤が確立しました。

3. 新しい事務所と記念事業

10周年を記念して①記念誌の発行、②記念旅行（実施済）、③陸前高田、福島への復興支援、④事務所の開設と新事業の立ち上げなどを行いたいと考えています。

東日本大震災の復興支援では陸前高田産品の販売を続けているほか、先日は福島の浜通へ桜を植える桜プロジェクトに参加しました。NPOいきいきまちだの銘板付きの桜10本がやがて見事な花を咲かせて人々を楽しませてくれることでしょう。

新しい事務所は、木曽東「竹の家」の近くに一軒家を借り５月１８日にオープンしました。

自前の事務所を持つことは、NPOいきいきまちだ発足当初からの悲願でしたが１０年にしてやっと実現したことになります。

今後は私達の活動のセンターとして大いに活用してほしいと思います。

４．新事業の立ち上げ

NPO活動１０年を経過してメンバーも過去最高の６５名になりましたが平均年齢も上がり７０才近くに達しています。世の中の高齢化も深刻ですが高齢化に伴う諸問題は私たち自身の問題でもあります。

そこで、今後NPOいきいきまちだをどのように持って行けばよいのか？新しい活動や事業はどうあるべきか？を検討するためこの２月より『新事業プロジェクト』を作って議論してきた結果次のような結論得ました。

新しい事務所を高齢者のふれあいの場として活用し、私たち自身が楽しむと共に地域の人たちの楽しみや憩いとなる色々なイベントを展開する中で高齢者の困りごとに信頼と安心価格で対応する新しい事業を実施したいというものです。

実施内容は、会員の意向や今後生まれる地域の高齢者との交流によって変わってくると思われますが当面は庭の草刈や植生管理、家の片づけ、荷物の運搬など私たちに出来る事から始めます。

ポイントは新事務所を中心とした「ふれあいサロン」を如何に充実したものに出来るかが成否の鍵になると思われます。

私たち自身の問題として、私たち自身が楽しみながら健康寿命を延ばすことに繋がることを信じて新しい門出にしたいと思います。

設 立 趣 旨

現在、町田市の里山・里地は保全管理の行き届いた所がある反面、地主の高齢化、後継者難及び人手不足により放置されている所もかなり多く見受けられます。

里山・里地の保全には下草刈り、萌芽更新、竹の駆除などによる雑木林の再生が不可欠となっています。

中でも近年は竹の繁茂が著しく、雑木林を駆逐する勢いで竹林が広がりつつある所が目立っています。

一方、竹の伐採と廃棄処分には、人手やお金がかかることもさることながら、高熱を出す竹の焼却処理には焼却炉を痛めるという難点があり大量の廃棄は困難となっています。

従来から町田市ではこの問題に着目して竹の伐採と竹炭づくりの活動をしている「里山・里地を守る会」などのボランティア団体がありますが、任意団体としての活動では地域や事業内容が限定されることからこれらの任意団体を統合し、地域行政とも連携して多くの市民が参加できる本格的な活動の場づくりとして生まれたのが『NPOいきいきまちだ』構想です。

その目的とするところは、「下草刈り・竹の駆除など雑木林の再生等を通して、里山・里地の保全を図るとともに人と自然との関わりを体験する場を提供することなどにより、自然の保護及び自然と人との調和を基に市民の健康づくりに資することを目的とする」ことです。

単に、「竹を切って炭を作る。これによって焼却処分の厄介物もうまく活用できて一挙兩得である」というだけでなく、「竹の伐採から竹細工や竹炭づくり、さらに筍掘りまでをイベント化して多くの一般市民に参加して楽しんでいただく、この過程で世代間交流や子供の健全育成につながるものがある」というのが私達の信念です。

すなわち、町田市の自然保護ならびに自然と人の調和を基盤に、人と自然、人と人とのふれあいによって市民が健康と活力を得る場を作ることが本旨です。言わば、町田の自然もいきいき、人もいきいきというのが趣旨であり、本会の名前の由来でもあります。

この目的と趣旨に添った活動を推進するにあたっては、社会的信用を得るためにも、広く公益を目的とした活動とする必要があることから、特定非営利活動法人が相応しく、今回特定非営利活動法人を設立することとしました。

平成14年11月23日

非営利活動法人 いきいきまちだ
代 表 者 向 井 弘 善

特定非営利活動法人いきいきまちだのスタートにあたって

平成15年6月18日

会長 向井 弘善

1) 発足の経緯

ご存知のように当会は、昨年11月23日に設立総会を開いて発足した新しい団体です。

発足に当たっては、里山・里地を守る会、学童保育の会（なかよしクラブ）、ダリア園、シルバー人材センター、町田健康生きがいきづくり推進協議会などの関係者が一堂に会して会の目的や性格づけについて議論を重ねてまいりました。話し合いの中で、夢は大きく広がってなかなか議論はつきませんでした。皆さんの熱意と熱い思いのこもった期待には圧倒されるものがありました。

2) 目的および名前の由来

結局、目的は「自然の保護および自然と人との調和を基に市民の健康づくりに資すること」とし、活動の推進に当たっては、社会的信用が得られ広く公益を目的とした活動とする必要があることから、特定非営利活動法人化を目指すことになりました。

「いきいきまちだ」という名前の由来は、町田市の自然保護を基盤に人と自然、人と人とのふれあいによって市民が健康と活力を得る場をつくること即ち『町田の自然もいきいき、人もいきいき』という趣旨を簡略表現したものです。

3) 助走

ところで設立総会后、この半年間は特定非営利活動法人化の手続きを進めながら、会の結束、会員の融和ならびに研修を目的にした様々な活動を行ってまいりました。

中でも、竹の伐採と竹炭づくりは6回の窯出しで400kgを超える竹炭をつくりました。投入した竹材は約5トン、竹の伐採から後処理、窯入れ、火入れ、窯だしなど延べ200人日にも及ぶボランティア活動となりましたが、皆さん笑顔で楽しみながら作業されていたのは印象的であり、いきいきまちだのパワーを感じました。

その他、さくらまつりや恩廻公園調節池完成イベントへの出店、図師日影坂下公園・たんぼぼ寮・農業現場などの見学、NPO準備プロジェクトから味噌や竹紙づくりまで色々な体験をともにしながら会の結束が図られるとともに会員個々の持ち味が発揮されて今後の活動へ向けての有効なウォーミングアップになったのではないかと思います。

4) NPO いきいきまちだのスタートにあたって

5月22日に東京都より特定非営利活動法人としての認証書が届き、同30日に法務局への法人登記を済ませました。

いよいよ待望の『特定非営利活動法人いきいきまちだ』のスタートです。

これからは、今までのような任意団体の活動と違ってNPOとして社会的な信用を背景とした幅広い活動が可能となる反面、義務や責任も大きくなります。

当会の15年度は、5月30日から翌年の3月31日の約10ヶ月という変則的な年度となりますが、6月29日の総会で審議いただく事業計画の達成に向けて全力を投入していきたいと考えています。

しかし、当会はまだ歩き始めたばかりです。山の頂は見えても進むべき道は見えないということも多いと思われます。会員一丸となって持てる力を結集して道を切り拓いていくことが求められます。

設立時の熱い思いを忘れず、明日の夢に向かって今日の一步を力強く踏み出そうではありませんか。会員の皆様方のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

地域の人々に支えられて迎えた10周年

竹の伐採と竹炭づくりから始まったNPOいきいきまちだの活動は公園管理、農業関連事業、伝統文化こども教室などへと発展し今日まで続けてこれたのは地域社会で受け入れられ、篤志家の方々の一方ならぬご支援の賜物と誠に感謝に耐えません。

お世話になった多くの方々の中から特にお世話になった4名の方を紹介するとともに激励のメッセージなどを紹介させていただきます。

野津田の石阪さん

いきいきまちだがNPO認証される前の“里山を守る会”という任意団体時代から竹炭づくりの活動拠点として庭先の竹林を利用させていただいています。場所は七国山の麓、鎌倉古道に面し東京都の風致地区に指定されている風光明媚なところにあり竹を切って竹炭を作るという活動が如何にも里山・里地を保全するというわれわれの目的にぴったりの活動としてその後の活動に引き継がれることになりました。

炭焼き窯は、同所にシルバー人材センターが作られた窯2基を踏襲して竹炭作りをしていましたが周辺の宅地化が進み煙や匂いにたいする苦情が出るようになったため炭焼き窯は小山田の田中谷戸に移すことになりました。

炭焼きをしなくなっても、石阪竹林では健康ふれあい講座、伝統文化こども教室、町田市雑木林管理講習会や竹炭用竹の伐採、椎茸の原木栽培などで今でも重要な活動拠点として利用させていただいています。

石阪さんから今までの活動を振り返って「竹炭づくりは炭焼き窯作りが大変だったが良い思い出となっています。また、竹林の管理では大変お世話になっており感謝しています。」そして今後の会のあり方や活動について「会員の方々の高齢化が進んで行事の運営なども大変になってくると思いますが皆様健康に留意されて地道な活動を続けられるよう祈念いたします。」との言葉をいただきました。

小野路の古賀さん

小野路町にある大きな竹林にお邪魔するようになったのもNPO活動の始めごろからでした。当初の活動は竹炭作りが中心でしたから大量の竹が必要でありしかも太くて良質な孟宗竹が揃ったこの竹は重宝させてもらいました。回数は減りましたが今でも年に何回かは竹を切らせてもらったり竹の子を掘らせてもらったりで大変お世話になっています。

また、古賀さんは日本映画・テレビ美術監督協会、町田市美術協会に所属され数々の展覧会で入賞されている水彩画の大家です。家には何時も作品が置かれていて私達も見せていただき説明を聞いて心が和む思いをしたものです。古賀さんの絵画はNPOいきいきまちだのHP (<http://ikiikimatida.com/>)『古賀邑美の絵画作品』として掲載しています。

以下、古賀さんからのメッセージです。

「向井さん、高須さんはじめ皆様と出会って8年以上になるでしょうか。

我が家の裏側の傾斜地に乱立している手付かずの荒れてきた竹林を毎年伐採、剪定していただき大変ありがとうございます。

竹炭窯を造り竹炭を福祉施設に提供される活動に接する機会があり活動の幅の広さを知ることが出来ました。豊かな経験と多様な知能を持った皆様に感嘆しました。

10周年を契機に新たな仲間が加わり皆様の志が継続発展されますことを期待しています。

私が出来るのは絵画の創作活動と展示によって観る方に和める一刻を創り出せればと思っています。」

小山田の田中さん

鶴見川の源流となっている田中谷戸の一角に会員が畑を借りて農業を始めたのがきっかけで田中旭さんとの長くて深い交流が始まりました。農業には素人だった私達に根気強く、厳しく農業のいろはを教えていただきました。今でも鮮明に思い出すのは田中興業の隣（現在墓地になっている場所）にあった最初の畑で麦刈りをしたとき鎌の扱い方、刈った麦の束のおき方、体の進め方など細かく指導を受け、手本としてやって見せていただく鮮やかな作業と合理的で無駄のない作業に感嘆したものでした。「あなた方の麦刈りはせっかく実った麦をばらまいているようなものだ」との苦言をいただきました。

野津田での炭焼きが出来なくなったため困っていましたが、炭焼き窯を田中谷戸に造ることに快諾を頂き新しい竹炭窯が平成19年2月に完成しここでの竹炭づくりが始まり私達にとって無くてはならない重要拠点となりました。

その後田中谷戸は伝統文化こども教室の農業体験、自然散策、どんど焼き、炭焼き体験など子供達が自然に親しむ場所として子供達の心にも焼きつくような素晴らしい役割を果たしてくれました。田中さんは単に場所を提供してくださるだけでなく子供達の遊具や野生料理の食材の提供など細かい心配りをしていただきました。

田中谷戸の自然環境や景観は素晴らしいものがあり私達もボランティア活動の定例日を入れて草刈や不要な竹木の伐採など環境整備を心がけてきました。中でも平成21年には『蛍の里づくり』と称して近隣の人たちも巻き込んで鶴見川源流付近の川筋の環境整備に取り組んだ結果、かなりの数の蛍が復活し優雅に飛び交う姿にみんなで感激し合ったものです。

田中谷戸では菜の花などの景観植物を植えて花を楽しむとともに菜種油をとって野外料理を楽しんだり、『里山でワインを楽しむ会』を催したりしています。

本当に田中谷戸は田中さんの手厚いご支援を得て、『自然の中で自然と人、人と人のふれあいによる健康増進を図る』『自然も生きいき人も生きいき』という私たちの活動の原点を実践させてくれている貴重な活動拠点となっています。

木曽の石川さん

いきいきまちだで楽しい行事の1つに餅つきがあります。これは平成15年12月から木曽の石川英行さんの庭先で行うのが恒例となっています。会員はもとより、会員の家族、伝統文化こども教室の子供達も参加し昨年はお近所の子供達も加わって盛大な餅つきとなりました。

石川さんのところで忘れてならないのは庭の一角に残っていた古い母屋を整備して「竹の家」と称して竹細工教室や会議室として使わせていただくなどいきいきまちだの活動拠点としてなくてはならない存在となりました。その石川さんはこの10年を振り返って次のようなコメントを寄せていただきました。

「NPO認証10周年おめでとうございます。向井会長を中心とされましてこれまで理事の皆様には大変なご努力があったと思います。私の知る限りでは子供さんを集め、竹細工、お餅つき等の事業を通し地域の方々とコミュニケーションをとられ活動していたことを承知しています。これからも発展されることを期待しています。」

更に、今後は私たちの新しい活動である『高齢者の憩いの場づくり』のために新しい事務所を貸して下さることになりました。そして「地域の方々とますます絆を深めていくと良いと思います。」とエールを送っていただきました。

10周年を迎えて会員のひとこと

種々の活動を通じ、会員相互の友好と健康維持に携われたこと。事の価値観を満たし生き甲斐を知るために個々の作業目的にそった研究と知識を求めてほしかった。(新井貞雄)

余り多くの活動、行事への参加も少ないので、その点は反省しています。(宇山義之)

私の一言、輪をもって輪を広げよう。(桐谷進)

10周年おめでとうございます。ご縁を得て数年間、三ツ目山公園の作業に始まり、公園の排水清掃作業、子供教室、小学校への竹細工ボランティア、竹林整備などなど、多くの皆様と接し身体活動ができます喜び、このような機会に参加させて頂け感謝に堪えません。今後も幅広く参加させて頂きたいと思います。皆様と共に、老いに立ち向かいながら元気に活動致したいと思います。今後も宜しくお願いいたします。(黒田大三郎)

10周年おめでとうございます。設立以来お役にたったか甚だ心もとないですが、参加することに意義ありと決めて、早いもので10年も面倒を見て頂き感謝の念に堪えません。小生にとって未開拓の分野にタッチでき楽しく過ごさせていただきありがとうございました。(齋藤壽廣)

開設から10年。当初から携わってきた一人として感慨深いものがあります。最初は山里竹林などの整備をし、町おこしに貢献しようという事でスタート。

私も当時は町田ダリヤ園に勤務しており、ダリヤ園で働く障がい者の方々と共に炭焼きの現場を訪れ、喜ばれたことなどの思い出があります。

そのことから、ダリヤ園とは竹炭を提供していることが今日まで至っています。

(佐々布光男)

今までの活動の中で特に印象に残るのは排水清掃作業でした。厳しい寒さの中での辛い作業でしたが、多くの仲間の方々と知り合え、作業終了時に於いて心の奥深く達成感を味わえた懐かしい思い出です。(宋戸勝佳)

除草や竹の伐採、排水溝の清掃など還暦を過ぎてから新しい経験の連続でした。作業の工程管理や成果物の品質管理など皆さんのお蔭で知らない世界が開けてくるのが楽しく10年経ってしまいました。(田中良也)

田中谷戸に於ける活動で飲料水がなかった事が残念です。農作物の収穫や子供教室などで水の確保が大事と思います。（中込誠）

何でも興味があり参加したいと思うが週3～4日は何かの用があり参加日も制限される。土日は家に居たいので外に出られるのは月・木の2日間、月曜も1日の月と2日間出る月がありなかなか忙しい。（七海政則）

・反省点はなるべく参加したいのですが、個人的に忙しくあまり協力出来なかった事です。

・作業場所が遠い場合、交通手段が自転車なので自動車の人に同乗させてもらう様手配などお願いしたい。（藤井実）

ドンド焼きが楽しかった。餅つきも楽しかった。（古田玲子）

① 竹の家は真子様と二人で竹切り、あぶり、つや出しあの古い周りの手入れ他、改築しました。

② シルバーと重複して思うように活動は出来ませんでした。これからも。

（松島弘一）

印象深いのは伝統文化こども教室で子供達と遊んだことと蛍の里づくりで大勢のボランティアで川辺を整備し、蛍の出現に大感激したことです。仕事面では、雇用創出事業の大役を3年間も無事果たせたことでしょうか？（向井弘善）

公園の整備と三ツ目山の除草。餅つきが思い出にあります。（榎本三郎）

私くし此の10年 NPO に入ってよかった。 皆さんは元気で気持ちのいい人なので仕事もたのしく毎日がたのしいです。（山田幸弘）

子供教室では子供達が嬉しそうに走り廻っていたのが印象的です。（吉田勝）

町田市内各地での竹炭販売。定期的なフリーマーケット参加が思い出です。
反省点は ・もっと積極的にイベントや作業に参加。・部会にもっと深く関わる体制づくり。・会員拡大事業の具体化。（吉本憩充）

親睦旅行楽しかった。 炭焼きなど勉強にもなりました。（農海孝雄）

蛭の里づくりのための草刈りは楽しめました。(青木繁政)

- ・女性のコミュニケーションがないのが少し残念に感じました。
- ・子供教室では子供達が生き生きと遊んで私達が作ったものを美味しいと言ってくれたのが一番でした。(吉田洋子)

私は橋口農園の野菜販売をこの数年やって来ましたが、この様な事は会員にはあまり知れ渡っていない様に思います。会員が NPO の名の元で活動する機会は全員会員にある訳でどの様な活動するにしても相互理解し合い会の繁栄を願いたいのは会員各位の生き甲斐などにつながれば良いのではないのでしょうか。(岡谷恵子)

東京で生まれ育った私は、幼い時はいわゆる空地で遊んだ記憶しかありません。ですから桑畑もハス田も畑や田もある町田の自然が大好きです。炭作り、どんど焼き、ウォーキングなど、子供教室の小学生と一緒に参加して何でも興味深く楽しい経験が出来ました。(稲垣千枝子)

今までの活動の中、後輩に技術を受け継いでいける場を多くもって交流を深めた。(炭焼き、農業、里づくり、子供たちに遊びを教える事等) (磯崎慶一郎)

知人が多く出来た。(野崎靖人)

参加して1年目は、なかには付き合いにくい人も居ましたが、今では誰とでも話しが出来るようになりました。一人でも多くの人との出合を大事にしたいと心がけています。(井上博夫)

一度も参加出来ず残念です。申し訳有りません。(早川恒男)

炭 焼 き

◎初窯

040117：七国山の石阪竹林に、シルバー人材センターの会員でもあったメンバーが使っていた炭焼き窯がありました。仕事始めに前年の7月にぬぼこ山で伐採した竹を焼いてみることになりました。窯ならしの意味もあり、古竹でもあり、何とか炭になっていたのはわずかでした。

◎炭焼き窯完成お披露目の会

070212：その後石阪竹林の隣接地で宅地開発が始まり、炭焼きを続けることは不可能となりました。代替地として結局、小山田の畑の脇に新設することとなり、新井さんを中心に作業が行われ、ようやく完成の日を迎えることが出来ました。最後に「初心」を忘れないようにとの思いから額が掲げられました。



◎竹林整備

070310：この日は小野路の古賀竹林を整備することになりました。小型の窯でも竹材を用意することは大変です。決まった長さに切った竹を四つ割りにして節を落とし、束ねていきます。一回に100束くらい必要です。3月末にこの竹を使って第1回目の炭焼きが始まりました。古賀竹林にはこれから何回も伺って、竹の伐採を行う事になりました。火入れの間は煙の様子を見ながら、空気口を開閉したりして火の加減を調整しなければなりません。経験が物を言う世界です。4月5日、冷えるのを待って最初の炭の取り出しを行いました。

◎竹炭提供

できあがった竹炭は決まった長さに切り、袋に詰めてイベントの時などに販売します。一時ほどの関心は惹きませんが根強い支持があります。また、ダリア園に提供して、障が

い者の作業に役立ててもらっています。

◎炭焼き作業の様子



竹林で伐採



決まった長さに切る



割っています



節をとります



束ねて



炭だし

炭焼き窯づくり奮闘記

2007 年 2 月 向井 弘善

1. 里山・里地の今昔

昔は里山の風景の一つに“炭焼き”がありました。

萌芽更新や間伐で伐採した木材や放置すると手におえないくらい繁茂する竹を使って炭を焼いて燃料として利用するという自然の循環に沿った生活が形成されていたのです。

現在では人と里山との関係が一変するとともに後継者不足から荒れ放題の里山里地を目にすることが多く炭焼きもほとんど見られなくなりました。

2. 植物の剪定枝は焼却しかないのか？

野焼きが禁止されている現在では大量の剪定枝は有料でチップ化处理されるかゴミとして燃やされています。

一方、竹は硬くてチップ化し難いためゴミとして焼却処理されるが高熱を発して焼却炉を傷めるため嫌われ者になっています。

この嫌われ者である竹の自然の循環に沿った活用方法を模索しているNPOいきいきまちだでは従来から竹炭を焼いて直接販売したり障害者の施設へ無償提供したりしてきました。

3. 炭焼きのできる場所を求めて

私たちの炭焼き窯は町田の七国山（薬師池公園のそば）の北西斜面にあります但し周辺の宅地化がすすみ本格的な炭焼きをすることが難しくなっています。

都会人は炭焼きの煙や匂いを嫌いちょっとしたことで苦情が噴出します。

そこで炭焼きのできる新しい場所を選定して炭焼き窯を新設することにしました。

新しい炭焼き窯は鶴見川の源流近く、田中谷戸と呼ばれる谷戸の一角に作ることに決めました。その場所はNPOいきいきまちだの農業体験事業部が有機野菜を作っているところで地主さんからも快く了解していただきました。

4. 新しい炭焼き窯づくり

早速炭焼き窯づくりのプロジェクトをつくり製作に取り掛かりました。

現在都会で本格的な炭焼き窯を作るのは珍しく、窯作りの技術も古い人の間にわずかに残っている程度で実践を伴って伝承されているのは少ないしドキュメントとして残っているものはあまりありません。

幸い私たちNPOの仲間には 6 年前に現在の炭焼き窯を作った経験者がいるのでその人たちを中心にできるだけお金をかけない窯づくりが始まりました。

設計図面はパソコンによる本格図面をつくり、近場の水路での粘土集め、基礎工事、窯体づくりから屋根や外壁にいたるまで全て手作りの炭焼き窯を作り上げました。

期間は1ヶ月余り、人手は約80人日程度かかりました。

5. 炭焼き窯の活用

今後は色々な効用を持つ竹炭の直接利用とともに土壌改良剤としての活用など竹材の自然のサイクルに沿った処理方法を試しながら更に大きな炭焼き窯を作っていきたい。

農 業 活 動

◎農地の確保

0308--：この頃、小山田にある田中興業さんの畑を借用できることになりました。会員が個人的に借りたものですが、この場所をNPO農作業の拠点として活用することの暗黙の了解を得られました。05年には炭焼き窯を作ることも認められ、子どもたちの農業体験の場としても積極的に活用されています。しかし、畑の維持については一部の会員の非常な努力によって支えられている現状は続いたままとなっています。

◎農作業

040328：キノコの菌を植えました。暮れに伐採しておいたほだ木にキノコの菌を植えることになりました。060318、070317、080315、110514にも植菌作業を行いました。ほだ木はその後石阪竹林に移動して管理しています。不心得者に悩まされてもいます。



040411：小野路の古賀竹林で筍掘りを行いました。以後、古賀竹林、石阪竹林で春の楽しみな行事として続けさせていただいています。

040616：小山田農地で初めての麦刈りをする事になりました。夕方までかかって刈り取りと脱穀を行いました。60kg詰めの袋に2つあまり、140kgほどの収穫がありました。うどんやパンに加工してイベントの際に活用しました。

050320：ジャガイモの植え付けを行いました。また、0508には古代米の種蒔きをしましたが、こちらは収穫には失敗しました。

090613：麦刈りをしました。粉にしてうどんを作りました。

090912：菜の花の集い 広い農地に景観植物として菜の花を植える試みのスタートです。多くの賛同者を得て1004種蒔きをし、春には見事な黄色い花畑が出現しました。100620から収穫し、集められた種を油にしました。畑の土と混ぜないように種を獲る方法など、改めて農業は高度な技術で成り立っていることを知りました。



120731：この年はソバの種蒔きをしました。1016に刈り取りを行い、粉にひいてソバに加工してもらいました。種蒔きも収穫も適期は意外と早く、そこに人を集めて作業するこ

との難しさを学びました。

◎ホタルの里

090207：第1回～0408第6回 地元の方々の意向にも沿い、いきいきまちだが全面的に協力し、「農とみどりの街づくり」を目指して始めたもので、北部丘陵地域整備の一環としても位置づけられています。鶴見川源流池の少し下流から100mくらいに亘って川の両岸の竹や木を切ったり雑草を刈り取る作業を行うなど環境の整備を行いました。

090622：蛍、飛び始める 0708 発生終了 「蛍の里づくり」で整備したところより上流「源流」とは別の細い流れで、それこそ源流にふさわしい谷戸が中心でした。行動は活発で、流れに沿って2～30mの間を行ったり来たり、ときには7～8mの高さで光っている個体もありました。



◎農作物の販売

各イベントや有志の会員が定期的に行っているフリーマーケットなどの機会を捉えて販売しています。無農薬の地元産の野菜として根強い人気があり、事務所の開設に伴い、安定的な販売拠点とすることを検討しています。



イベントへの参加

◎まちださくらまつり

030405：NPOを結成して、まだ認証前ですが、初めてのイベント参加です。馴れない出店にてんやわんや。呼び込みの声も次第にできるようになり、甘酒は完売となり、塩焼きそば、竹炭や竹製品も順調に売ることが出来ました。

以後、さくらまつりには毎年参加し、ドーナツとカステラ（2004）、すいとん（2010）芋スティック（2012）に挑戦、2005年に始めた水あめは子どもたちに大人気で定番のメニューとなりました。また、この年からダリア園の花が加わりました。2011年は東日本大震災のため中止となり、2013年は抽選に外れ不参加となりました（結果的には開花が早まり中止）。



◎恩廻公園調節池完成記念式典

030615：恩廻（おんまわし）公園調節池の完成記念式典が行われました。模擬店を出す事が急に決まり、認証後最初の活動となりました。竹炭を使った「げそ焼き」は大好評でしたが、武士の商法といった印象はぬぐえませんでした。



◎まちづくりワイワイ祭



031019：「まちづくりワイワイ祭」芹が谷公園で開かれ、焼き肉やイカなどは午前中に完売となり、慌ただしいひと時もありました。午後は水あめが主となり、竹炭、手作りケーキ、ハーブ石けんなども人気を集めました。

ワイワイ祭には翌04年にも参加しましたが、収益を上げることの難しさを実感させられました。

◎子どもも大人も遊びもまちだ展

080720：2000年頃からひなた村で「子どもも大人も遊びもまちだ展」が開かれていて、この年初めて参加しました。シュロ葉・包装ひもを使った細工は親子共々好評でした。豚汁も昼前には完売してしまいました。野菜も大人気でした。翌09年は“すいとん”を出したところ、追加が間に合わないほどの好評でした。「まちだ展」への参加はこの2回に留まりました。



◎町田の逸品&掘り出し市

090302～09：ミーナ町田3F特設会場

初めて本格的な店舗の中での出店で、展示方法についてプロから教えていただき大いに参考になりました。



◎三つ目山公園ふれあい祭り

091018：小山町第三町内会主催のふれあい祭りに参加しました。フリーマーケット(リサイクル品)と野菜・竹炭・水あめの販売、竹遊具コーナーという内容でした。町内会の交流と親睦を目的とした行事ですが、三つ目山公園に関わる縁で参加を認められました。



◎覚円坊観音堂の菊まつり



121111：木曽の覚円坊観音堂では、2011年から地域の活性化を目指して、定期的にイベントが開催されるようになり、「竹の家」を利用させてもらっている御縁もあって最初から参加しています。

この年からイベントの際には、陸前高田市の復興支援として特産品の販売を行っています。

子どもたちへの働きかけ

◎自然観察会

041114：初めての試みで、こども達を対象にした自然観察会を図師坂下日影公園で行いました。先ず、上小山田の畑で芋掘りからスタート。公園に戻ってこれを焼き芋にします。大鍋では豚汁すいとんの準備をしました。こども達は早速サツマイモをフォイルに包んで、火の中に置き、焼けるまで自然観察に出発。カブトムシの幼虫を枯葉を積んだ枠に放しました。戻ると、そろそろ焼き芋の出来上がり、自分で手がけたので味は格別。すいとんもおいしくて、何杯もお代わりをしていました。食後はお面作り、それから、竹とんぼや竹馬を作りました。



◎伝統文化こども教室

070721：文化庁から委嘱を受けた（財）伝統文化活性化国民協会の事業に採択され実施の運びとなりました。この年は忠生の学童教室の協力を得て、下記の10回の内容で行われました。

- 第1回（070721）「縄文時代の心、現代の心」 考古資料室－小山田のハス田－鶴見川源流
- 第2・3回（070824・25）竹細工 カップづくり、六つ目盛カゴづくり（川崎市の「民具制作技術保存会 竹細工グループ」協力）
- 第4・5回（070915・1020）農業体験 ジャガイモ植え付け、サツマイモ収穫、焼き芋
- 第6回（071117）自然観察会・図師坂下日影公園 竹馬づくり、パン焼き
- 第7回（071222）餅つき大会・竹の家
- 第8・9回（080119・0216）炭焼き体験 竹の切り出し・窯詰め、炭の取り出し
- 第10回（080315）「竹林に遊ぶ」七国山 サンマの串焼き





「伝統文化こども教室」は2010年まで4回実施することが出来ました。8年度からは忠生1小、山崎小の子どもたちが参加することになりました。内容的には7年度の考え方が引き継がれました。

◎忠生3小総合学習支援

080922：忠生3小総合学習への支援を行うことになり、事前合同学習として「竹林や農業の様子」を地域の三澤氏に話していただきました。様々な種類の竹を持ち込んで、豊かな学習となりました。

081020～23：クラス別に竹細工の実習を行いました。

◎山崎小サマースクール支援

100825～27：山崎小サマースクールへの支援を行うことになりました。夏休みの終わりにいろんなメニューを用意して子どもたちが好きなものへ参加するというものです。NPOは同小で竹細工教室を開催しました。親も含めて賑やかな行事となりました。これを機会に毎年協力することとなり、2012年にはソーメン流しも依頼され大賑わいでした。



拠点づくり

◎竹の家

070122：従来から餅つきなどの時利用させて頂いていた石川さん所有の古民家を、改修しても良いとの許可があり、工事に取りかかりました。次の使用予定までということなので、極力費用をかけず、竹材や古材を活用しながら進めることになりました。



長く放置されていた建物なので、痛みはひどく、まず屋根の補強から着手しました。右手の納戸のようなところは取り払われてこじんまりした姿になりました。再利用のため不似合いなほどの立派な玄関です。外壁は竹材を貼ったユニークな造りです。

070607：木曽の石川邸補修工事に区切りがつき、完成披露の会が開かれました。いつとはなく「竹の家」と呼ばれるようになり、毎月の理事会を始め、イベントなどで活用されました。

◎新事務所の開設

1304--：「竹の家」は老朽化が目立ち、雨漏りがひどくなるなど、次第に使用がはばかれるようになりました。そんな折、近くの石川事務所に隣接する建物を借用する話が持ち上がりました。20坪の立派な家ですが、弁当屋の厨房として使われていたので、内装を一新する必要があります。NPOで使いやすいようにと相談しながら設計をまとめ、工事が始まりました。とりあえず3年を目途に賃貸契約を結ぶことになりました。



主室は24畳の広さがあり、多目的な利用ができます。この他6畳の小部屋ができ、当面事務所としての利用を考えています。

◎新事務所完成

130518：連休を挟んで工事は急ピッチで進み、この日「竹の家」に集まり、引越しを行いました。NPOの活動に大きな展開をもたらすものと期待されます。



会長挨拶



皆で会食



立派な看板がやっと役に立ちました。

J O B

◎ヌボコ山（神社）の竹の伐採

030718～20：NPOとして初の仕事として受注しました。延べ40名ほどの参加を得て、順調に作業を終えることが出来ました。18日は主に伐採、19日は伐採と運搬、20日は運搬で、約150本ほどの竹を伐採し、混み合っていた竹林にさわやかな風が吹き抜けるようになりました。

◎三輪地区の竹の伐採

040209～：公園緑地課から初めて竹切り作業の受注に成功しました。三輪の三ヶ所と成瀬の竹林で2,500本の伐採を行いました。チップパーで砕いた竹を囲みに積んで置いたらカブトムシが大量に発生していたのは驚きの発見でした。

◎市立公園雨水排水清掃業務

0501～：高圧車で地中の排水管を清掃するとともに、側溝や排水枡に詰まった泥を排除し排水機能を維持する仕事です。05年には167公園、07年には37公園、09年には207公園、11年には268公園、12年には222公園の清掃を受注しました。延べ901公園、630余の公園・緑地を手がけました。中には開設以来手を入れたことがないところもあり。木や竹の根が入り込んだ溝や管の清掃は想像を超えるものでした。

◎三ツ目山公園除草作業

0706～：初めて三ツ目山公園および図師坂下日影公園の除草を受注しました。三ツ目山公園はその後毎年依頼を受け、年3回作業を行っています。猛暑の中での作業は、高齢者にとって極めて過酷なものです。08年、09年には三ツ目山公園の竹伐採も受注しています。11年には日影公園の笹刈りと樹木伐採も行っています。

◎団地植栽調査

070828～：計測プランからの依頼で、団地の樹木から地被まで、地図上に詳細な記録を作成するものでした。神奈川県内の4団地を担当し11月末までかかりました。馴れない仕事で、成果物の作成には大変苦勞しました。

そ の 他

◎谷戸山管理技術者養成事業へ講師派遣

040221-22：町田市主催の「谷戸山管理技術者養成事業」が行われ、「いきいきまちだ」から3名の講師を派遣しました。町田の里山を管理している18の民間団体を対象にしたものでしたが、実践的で大変良かったとの評価を得ています。

これを機に毎年講師派遣の依頼が来ることとなり、「雑木林管理講習会」と名を変えて続いています。初級編と入門編とがあり、入門編は広報誌で公募、初級編は入門編を受講した人を対照に行われています。内容は、雑木林の自然について講話、ロープワーク、竹や樹木の伐採、刈払い機の使い方など。

◎広報活動

0510--：会のホームページを作成しました。承認前の活動、承認のいきさつ、その後の活動や総会資料などが詳細に記録されています。今回の記念誌の作成に大いに役立ちました。左は8年5月のもの、右は13年5月のものです。



030629：会報第1号を発行しました。定期的に発行する予定でしたが、080601の第6号で止まっています。



◎まちびと

090701 : 「まちびと」 2009 年夏号で「農と緑のまちづくりでホテルを呼ぶ」 N P O 法人いきいきまちだが紹介されました。



◎パネル・紹介チラシ作成

0902-- : 展示紹介などの機会に利用するためにパネルを作成しました。A 全版でラミネート加工し、活用しています。また、紹介のチラシもあり、イベントの際に配布して P R に役立てています。

NPO いきいきまちだ

里山・里地の保全には下草刈り、草刈更新、竹の植栽などによる雑木林の再生が不可欠となっています。中でも近年は竹の密度が著しく、雑木林を繁殖させるのに竹が広がりつつある所が目立っています。そこで、地域行政とも連携して多くの市民が参加できる本格的な活動の場づくりとして生まれたのが『NPO いきいきまちだ』構想です。

「蜜の里」づくり



伝統文化こども教室

野菜・キノコの栽培



竹林の整備



竹炭づくり



竹炭づくり



NPO いきいきまちだ



「蜜の里」づくり

総見川源流付近には小規模ながらホテルが生息しています。ここに「蜜の里」を作りたいという地域の要望を受け、源流下流の整備を始めた。整備する多くの人が集まり、川を取り囲む里山を築く。川を築くことで、ホテルの公平となるカワウソが確認され、その他の里山も整備することが出来た。川の反対側には豊かな里山風景が広がっています。ここで活動している他の団体とも協力して、この場所をより魅力的なスポットにしたいと考えています。



伝統文化こども教室

伝統文化こども教室は、文化庁の委嘱を受けた(財)伝統文化活性化国民協会の補助金により実施しているもので、7月から3月の第10回まで、毎月1回開催しています。内容は自然観察、竹細工、農業体験、炭焼体験、餅つき体験などです。いずれも大好評で、子どもたちは熱心に参加してくれています。

竹林の整備

竹炭づくり

野菜・キノコの栽培

里山・里地の保全には下草刈り、草刈更新、竹の植栽などによる雑木林の再生が不可欠となっています。中でも近年は竹の密度が著しく、雑木林を繁殖させるのに竹が広がりつつある所が目立っています。そこで、地域行政とも連携して多くの市民が参加できる本格的な活動の場づくりとして生まれたのが『NPO いきいきまちだ』構想です。



「蜜の里」づくり

総見川源流付近には小規模ながらホテルが生息しています。ここに「蜜の里」を作りたいという地域の要望を受け、源流下流の整備を始めた。整備する多くの人が集まり、川を取り囲む里山を築く。川を築くことで、ホテルの公平となるカワウソが確認され、その他の里山も整備することが出来た。川の反対側には豊かな里山風景が広がっています。ここで活動している他の団体とも協力して、この場所をより魅力的なスポットにしたいと考えています。

伝統文化こども教室

伝統文化こども教室は、文化庁の委嘱を受けた(財)伝統文化活性化国民協会の補助金により実施しているもので、7月から3月の第10回まで、毎月1回開催しています。内容は自然観察、竹細工、農業体験、炭焼体験、餅つき体験などです。いずれも大好評で、子どもたちは熱心に参加してくれています。

竹林の整備

竹炭づくり

野菜・キノコの栽培

などにも取り組んでいます

<http://ikiikimachida.com/>

◎研修活動

031004 : 高須さんの知り合いが山梨県明野村でハーブ石けんを作っています。ワイワイ祭りに出品することが決まり、研修を目的として、茅が岳山麓にある明野村への日帰り旅行が行われました。

040625-26 : 竹炭化炉メーカー工場見学。「竹炭」の生産技術について、栃木県大田原市にある日本でも有数の竹炭化炉メーカー（消煙式炭化装置）のサーマル(株)那須工場へ工場見学を兼ねた研修会が行われました。

070602：鶴川・鈴木工務店「可喜庵」を見学し、藁屋根の修復やこの施設を利用した活動の可能性について意見交換会を持ちました。

070722：竹細工講習会 伝統文化こども教室の準備として、川崎市の「民具制作技術保存会 竹細工グループ」の皆さんの指導で竹細工講習会を開催しました。

040122-23：初めての宿泊研修会を行いました。24名の参加を得て、鬼怒川温泉「沢風」で開催しました。3つの班に分かれて、みっちりNPOのことについて話し合いました。夕食後は思い思いに楽しい時間を過ごし、親睦を深めました。

130313-14：10周年記念行事の一環として、6年ぶりに湯河原温泉「杉菜」で宿泊研修会を行いました。

幹事部屋に麻雀や碁盤を用意したり、夕食時にはカラオケもあって、時の経つのを忘れしました。二日目は足柄のキリンビール工場見学を予定しました。普段ゆっくり交流することの少ないNPOとしては貴重な機会となりました。



明野村



宿泊研修会

120823-24：10周年記念行事の一環として、津波被災地支援の方向性を探るために、向井、田中、黒田の三人で陸前高田市を訪問しました。ボランティアの状況を知るために社会福祉協議会・災害ボランティアセンターのSさんに話を聞きました。次に、これも仮設の市役所を訪れ、企画部企画政策課のY主事から話を聞きました。ここから、広田水産グラウンドの仮設住宅を訪れ、会長さんが不在のためS副会長に面会し、貴重な話を伺いました。その他、市立博物館や図書館を訪れ、復興未だの感を深くし、どのような支援が出来るのか考える貴重な機会となりました。



今後の活動について 会員アンケート

花粉減量の一環として人工林の間伐、枝打ち無花粉スギ植え替えなどの奉仕作業。

(新井貞雄)

年齢もあり大きな希望はありませんが、今後共宜しくお願い致します。(宇山義之)

(要望) 1) 谷戸の開発を 2) 市役所へのアプローチを 3) 他の NPO 法人が行っている 4) 現在行っている竹林の他の竹林の整理他 (木村和夫)

皆んなで作る、里山(農業・炭焼き) (桐谷進)

念願の新拠点の開所がいよいよ目前に近づいて来、喜びに堪えません。同時に、新拠点(新事務所)に相応しい活動の展開も会員が一丸となり促進しなければならないと思います。私の願望の一つに、新事務所が老若男女を問わず万人に親しまれる場、気軽に立ち寄れる場となること、今後の会の活動のために必要ではないかと感じます。新たに「いきいきまちだ」が発展致しますことを祈念して止みません。(黒田大三郎)

新たな拠点を作り、既存の活動に加え、地域とのコミュニケーションの範囲を広げられたらと思います。できれば里山関連で緑・自然と親しめる活動が更に多くなることを楽しみにし、同時に若い人の加入が増えることを期待します。(齋藤壽廣)

新しい事務所の開設、又、田中谷戸の畑を有効に活用した活動を期待。(例えば高齢者又は子供たちを対象にした) ①、各種教室(囲碁・将棋・食事会・竹細工・他) ②、お花、竹を利用した鉢植え等の生産・販売・寄贈。(佐々布光男)

高齢になり多くを望むも無理なので現状の動ける身体に感謝して、残された貴重な(時)を大切に活動を通して触れ逢えた方々と親交を深め、人生路の活力源にして行き度く思います。(宍戸勝佳)

新事業の計画に期待いたします。(高橋政治)

今後とも宜しくお願いします。(高橋義三)

子供教室を中心に農業体験を行い、そして作物の収穫の喜びを感じ、その時期に応じて色々な加工、料理の調理法等学びそして食する。団らん場を作り五感を楽しむ。それに

より老若男女の参加者増加を図る。(中込誠)

今は健康第一で行動している。60才以上のテニス、月1回の月と2回の月があるウォーキングの会、日曜日は自治会のソフトボールの集い、体を動かすだけですが NPO もウォーキングのような個人の健康に関した取り組みも興味がある。今迄の NPO の活動も不健康なものは何もありませんが出来るだけ参加を心掛けます。(七海政則)

私こと現在、老後の趣味として木彫をして18年。私が糖尿患って10名程で活動しています道路課より桜台の路肩を借りて花壇作りをしています。(野口喜一郎)

私は途中入会なのでNPO発足時の活動目的が良く分かりませんがNPOいきいきまちだの方針に従います。

10周年記念として親睦旅行に参加させてもらったとき皆さん歌が大変お好きなようでした。時にカラオケ大会等行ってもらえかと思います。(藤井実)

いきいきまちだ10周年おめでとうございます。色々活動に参加できず申し訳なく思っています。いきいきまちだのご発展をお祈りいたします。(深堀亮子)

子供たちと一緒に何か出来るとよいと思います。(古田玲子)

土曜日の活動は出来ません、仕事です。(松島弘一)

これからも自然とのかかわりを原点としつつ高齢者の憩やふれあいの場づくりに力を入れ、私達自身が楽しむこと、次世代を担う子供達とのふれあいも大切にしていきたいと思っています。(向井弘善)

①家の内のコンセント増備 ②エアコンの取外・取付け、その他移動 ③レコード・CDのコンサート(本業)、TVその他の調整 ④家の周りのクリーニング(外壁)等
(榎本三郎)

今年度は仕事を増して行きたい。皆さん元気でよく働く人たちなので成功すると思います。最初の仕事を物にしてから、また次の仕事と。仕事も無理をしないように新しい仕事をすれば。(山田幸弘)

・部会の活性化＝連絡網による部会会議の呼びかけ。 ・農作物のブランド化。 ・農業を会全体で取り組む。 ・竹を使った物づくりブランド化。(吉本憩充)

又、旅行などで親睦を深めたら良いと思います。ホタルの里作りをしましょう。

(農海孝雄)

蛍の里づくりの推進。(青木繁政)

最近の子供はあまり外で遊んでいません。未来を担う子供達に昔の遊び、長年続いてきた知恵や工夫を伝えていくことは大切だと思います。こども教室がなくなったのは残念ですが単発でも行って子供達の良い思い出になったらと思います。(稲垣千枝子)

この世で一番のストレスは人間関係であるとし、「一諸に居て元気の出る、体にいい人」と思い出をいっぱいづくるのが一番と強調する。どんな皆さんの集まりであっても、それを大事にしたい。「泣いて生まれて笑って死のう」。(磯崎慶一郎)

事務所開設の時は、飲料自動販売機を設置しても良いと思います。(井上博夫)

機会を作って参加したいと思っています。よろしくお願いいたします。(早川恒男)

女性会員の参加があると良いです。(武田君子)

年 表

2013 年

- 6 月 1 日 (土) 2013 年度総会 (町田市民フォーラム)、10 周年記念誌発行
- 5 月 29 日 (水) 自然幼稚園「昔の遊びの伝承」協力
- 5 月 18 日 (土) 事務所完成披露 (木曽東 4-19-36)、賃貸契約
- 4 月 6・7 日 (土・日) さくらまつり落選 (早咲きでまつりは中止)
- 3 月 13・4 日 (水・木) 10 周年記念宿泊研修 (湯河原)
- 3 月 9 日 (土) 炭出し (この年は 3 回実施)
- 2 月 20~24 日 (水~日) 雑木林管理講習会 (入門編) に講師派遣

2012 年

- 12 月 24 日 (月) 恒例餅つき (竹の家)
- 12 月 8 日 (土) 炭焼き準備: 竹切り (渋谷竹林・木曽西、古賀竹林)
- 11 月 21 日 (水) 図師坂下日影公園笹刈り
- 11 月 11 日 (日) 木曽観音堂 (覚円坊) 菊まつり
- 10 月 16 日 (火) ソバの刈り入れ (小山田農園)
- 10 月 7 日 (日) 三ツ目山ふれあい祭り (陸前高田市支援物資販売)
- 8 月 28~29 日 (火~水) 山崎小学校サマースクール支援
- 7 月 31 日 (火) ソバの種蒔き (小山田農園)
- 7 月 21 日 (土) 環境整備 農作業 (小山田農園)
- 7 月 8 日 (月) ホオズキ市 (木曽観音堂)
- 6 月 25 日 (月) 菜種刈り取り後処理 (小山田農園)
- 6 月 14 日 (木) 菜種刈り取り 自然観察 筍とり (小山田農園)
- 5 月 26 日 (土) 2012 年度総会 (町田文学館)、10 周年記念懇談会 (エルシー)
- 5 月 21 日 (月) 三ツ目山公園除草第 1 回 10/16 第 3 回終了
- 5 月 9 日 竹林整備、筍掘り (古賀竹林)
- 4 月 25 日 (水) 炭出し、周辺整備 (小山田農園)
- 4 月 21 日 (土) 竹林整備、筍掘り (石阪竹林)
- 4 月 7・8 日 (土・日) さくらまつり 尾根緑道
- 4 月 3 日 (火) 炭出し、第 2 回準備 (小山田農園)
- 2 月 13 日 (土) 竹伐採 (古賀竹林)
- 1 月 14・15 日 (金・土) 雑木林管理講習会 (初級編) に講師派遣

2011 年

- 12 月 17 日 (土) 年末餅つき大会 (竹の家)

10月30日(日) 三ツ目山ふれあいまつり(三ツ目山公園)
 9月10日(土) 石阪竹林整備
 8月25・26日(木・金) 山崎小学校サマースクール支援(竹細工教室)
 6月20日(月) 三ツ目山公園除草作業(公園緑地課受託) 9月まで3回実施
 6月3日(金) 竹炭を被災地へ発送
 5月29日(日) 2011年度総会(町田市民文学館ことばらんど)
 5月14日(土) ほだ木整理、竹炭切り(小山田農園他)
 4月22日(金) 炭だし(小山田農園)
 4月21日(木) 垣根作りと竹の子掘り(石阪竹林)
 4月2日(土) 炭焼き準備(小山田農園・図師日陰坂下公園)
 4月2・3日(土・日) さくらまつり 東北大地震のため中止
 3月3・4日(木・金) 炭焼き準備 古賀竹林(伐採と竹林整備)
 2月24～27日(木～日) 雑木林管理講習会(入門)講師派遣
 2月19日(土) 伝統文化こども教室最終回
 1月27・28日(木・金) 図師日陰坂下公園整備 公園緑地課委託
 1月14・15日(金・土) 谷戸山管理講習会(初級編)に講師派遣 ファーマーズセンター
 1月7日(金) 1月理事会 忠生市民センター

2010年

12月26日(日) 石阪竹林整備
 12月18日(土) 年末餅つき大会(伝統文化こども教室も兼ねる)
 12月10・11日(金・土) 谷戸山管理講習会講師派遣(ファーマーズセンター)
 11月13日(月) 公園雨水排水清掃業務開始 白山公園、以後市内公園・緑地
 10月17日(日) 第6回三ツ目山公園ふれあい祭り
 8月25～27日(水～金) 山崎小学校課外授業協力(山崎小) 竹細工
 7月18日(日) 忠生地区合同イベントに参加(上宿公園ふれあいひろば)
 7月17日(土) 伝統文化こども教室第1回(以後全10回を実施)
 6月20日(日) 玉ねぎと菜種の収穫作業(田中谷戸)
 5月29日(土) 2010年度総会(町田市民文学館ことばらんど)
 5月3日(月) 竹林整備と筍掘り(石阪竹林)
 4月29日(木) 炭出し・準備他(小山田農地)、5/9:第2回
 4月26日(月) 竹林整備と筍掘り(古賀竹林)
 4月3・4日(土・日) さくらまつり出店
 2月20日(土) 伝統文化こども教室最終回

2009 年

- 12 月 20 日（土） 年末餅つき大会（伝統文化こども教室も兼ねる）
12 月 18・19 日（金・土） 谷戸山管理講習会に講師派遣（ファーマーズセンター）
12 月 16 日（水） 公園排水清掃業務を受託、作業開始
10 月 18 日（日） 第 5 回三つ目山公園ふれあい祭り（小山町第三町内会主催）
9 月 12 日（土） 菜の花の集い 10/4：種蒔き（小山田農園）
7 月 23 日（木） 三つ目山公園での除草を受託、作業開始
7 月 19 日（日） 第 9 回子どもも大人も遊びもまちだ展（ひなた村）
7 月 18 日（土） 伝統文化こども教室第 1 回（以後全 10 回を実施）
7 月 1 日（月）「まちびと」で紹介 2009 年夏号
農と緑のまちづくりでホタルを呼ぶ「NPO 法人いきいきまちだ」
6 月 13 日（土） 「麦刈り」（小山田農園）
5 月 30 日（土） 2009 年度定期総会（町田市民フォーラム）
4 月 4・5 日（土・日） 「2009 まちださくらまつり」に出店
3 月 21 日（土） 伝統文化最終回
3 月 18 日（水） 石阪竹林整備
3 月 15 日（日） 植菌作業（小山田農地）
3 月 10・11 日（火・水） 三ッ目山公園竹伐採業務受託
3 月 2～9 日（水～月） 「町田の逸品&掘り出し市」（ミーナ町田 3 F 特設会場）
2 月 14 日（土） NPO・地域活動フェスティバル（市民ホール）
2 月 7 日（土） 「蛭の里づくり」 第 1 回 ～4/8 まで 6 回
1 月 31 日（土） 臨時総会（図師馬駟会館）、定款改正。新年会を開催
1 月 28 日（水） 共働学舎の炭焼窯設置(委託)
1 月 24 日（土） 炭焼準備（小山田農地）

2008 年

- 12 月 25 日（木） 三ッ目山公園竹伐採受注 ～12/27 約 400 本
12 月 20 日（土） 年末餅つき大会（伝統文化こども教室も兼ねる）
12 月 12・13 日（金・土） 谷戸山管理技術者養成講座へ講師派遣
12 月 6 日（土） 古賀竹林整備・炭焼竹材準備
10 月 21 日（火） 三ッ目山公園竹伐採受託 約 300 本 ～10/30
10 月 20 日（月）～ 忠生三小 竹細工の実習
10 月 12 日（日） 鉄板焼きを楽しむ会 竹の家
9 月 22 日（月） 忠生三小事前合同学習 「竹林や農業の様子」
9 月 13 日（土） 石阪竹林整備
8 月 19・20 日（火・水） ゆうき山公園排水清掃受託

7月20日(日) 子どもも大人も遊びもまちだ展 ひなた村
 7月19日(土) 伝統文化こども教室 第1回(以後全10回を実施)
 6月14日(土) 自然観察会と筍掘り(図師坂下日影公園→小山田農地)
 6月6日(金) 6月理事会 竹の家
 6月1日(金) 会報6号発行 ⇒ 会報6号
 5月24日(土) 2008年度総会(忠生市民センター)
 4月5・6日(土・日) さくらまつり(さくら吹雪)
 3月28日(金) 竹の伐採(古賀竹林)
 3月15日(土) 伝統文化こども教室最終回
 1月28日(月) 竹の伐採・竹林整備(古賀竹林)

2007年

12月22日(土) 年末餅つき大会(伝統文化こども教室も兼ねる)
 12月7日(金) 12月理事会 「竹の家」
 11月23日(金) 竹林整備(石阪竹林)
 11月17日(土) 里山管理技術者講習会(初級編)
 8月28日(火) 団地植栽調査(計測プラン依頼、神奈川県内の4団地)
 7月21日(土) 伝統文化こども教室 第1回(以後全10回を実施)
 6月18日(月) 公園緑地課から除草業務受託(三ッ目山公園・図師坂下日影公園)
 6月16日(土) 自然観察会(室内プール → 考古資料室 → 小山田緑地 → 小山田苗圃
 → 鶴見川源流 → 小山田農地)
 6月11日(月) 忠生遺跡出土遺物運搬業務、社会教育課から受託
 6月7日(木) 石川邸補修工事完成披露の会、「竹の家」と命名
 6月2日(土) 「可喜庵」(鶴川・鈴木工務店) 見学・意見交換会
 5月26日(土) 2007年度総会(町田市民フォーラム)、会員懇親会
 4月21日(土) 竹林整備(古賀竹林)
 4月7・8日(土・日) さくらまつり
 4月5日(木) 竹炭取り出し(小山田窯)
 3月17日(土) 椎茸植菌(小山田農地)
 2月23日(金) 竹林整備(古賀竹林) 炭焼き準備、3/10・3/31も
 2月22～25日(木～日) 谷戸山管理技術者講習会入門(全2回、2講座)
 2月12日(月) 炭焼き窯完成お披露目の会
 1月29日(月) ～ 市立公園雨水排水清掃業務開始(40公園)
 1月23日(火) 炭焼き窯の工事開始(小山田農地)
 1月22日(月) 木曽・石川旧宅の補修工事開始
 1月20日(土) 竹林整備(古賀竹林)、炭焼き準備

2006 年

- 12 月 23 日 (土) 餅つき大会 (木曽・石川宅)
- 12 月 17 日 (日) 落葉かき (図師坂下日影公園)
- 12 月 16 日 (土) 谷戸山管理技術者講習会初級 (全 4 回)
- 10 月 21 日 (土) 自然教室 2006 (図師坂下日影公園)
- 5 月 27 日 (土) 2006 年度の総会開催 (町田市民フォーラム)
- 3 月 25・26 日 (土・日) 古賀竹林の整備、筍掘り (4/16)
- 3 月 21 日 (火) 小山田農地の整備を行いました。
- 3 月 18 日 (土) キノコの植菌と竹林の整備 (石阪竹林)
- 1 月 22・23 日 (日・月) 初めての宿泊研修会 (鬼怒川温泉「沢風」)、24 名の参加
- 1 月 9 日 (月) 石阪竹林の整備

2005 年

- 12 月 25 日 (土) 餅つき大会 (木曽・石川宅)
- 12 月 4 日 (土) 落葉かきとササの除去 (図師坂下日影公園)
- 10 月 30 日 (日) 石阪竹林の整備、炭焼き窯の解体、ナメコ収穫
- 6 月 19 日 (日) 隣接地の竹を伐採 (小山田農地)
- 5 月 28 日 (土) 2005 年度の総会開催 (中央公民館)
- 5 月 15 日 (日) 図師坂下日影公園の整備
- 5 月 8 日 (日) 古代米の種まき
- 4 月 2・3 日 (土・日) 「さくらまつり」に参加 (咲き始め)
- 3 月 26 日 (土) 「地うどんと下仁田ネギを食する会」(前年収穫の麦を製麺)
- 3 月 20 日 (日) じゃがいもの植え付け
- 3 月 19 日 (土) 竹林整備 (小野路・古賀竹林)

2004 年

- 12 月 25 日 (土) 餅つき大会 (木曽・石川宅)
- 12 月 19 日 (土) 落葉かきとササの除去 (図師坂下日影公園)
- 11 月 14 日 (日) 子ども自然観察会、学童保育クラブに呼びかけ。
- 9 月 19 日 (日) わいわい祭に参加
- 8 月 22 日 (日) 図師坂下日影公園の整備と自然観察会を実施
- 6 月 25・26 日 (金・土) 研修旅行 無煙・無臭の炭化装置のメーカー・サーマル (栃木県) の見学会
- 6 月 16 日 (水) 麦刈りを体験 (小山田農地)
- 5 月 30 日 (日) 2004 年度の総会開催 (忠生市民センター)
- 4 月 24 日 (土) 健康ハイキング (ハイキング同好会) を支援

4月11日（日） タケノコ堀り（古賀竹林）
 4月3・4日（土・日） 「さくらまつり」に参加（3月開花の桜が持ちこたえた）
 3月28日（日） 植菌作業（暮に伐採した樹木を利用）
 3月14日（日） 小野路の古賀竹林で竹切り作業。石阪竹林の炭焼き窯が宅地開発で使用不能に。
 3月7日（日） 多摩健康生きがいつくりアドバイザー協議会主催の「健康・生きがいふれあい講座」に協力
 2月21・22日（土・日） 谷戸山管理技術者養成事業へ講師派遣
 2月1日（日） 竹切り作業を公園緑地課から受注、三輪・成瀬の竹林（9日作業開始）
 1月18日（日） 図師坂下日影公園で落ち葉かき

2003年

12月26日（金） 樹木の伐採を経験（小山田）
 12月25日（木） 最初の餅つき大会（木曾・石川宅）
 10月26日（日） 東京高齢者協議会の野外イベント（七国山）
 10月19日（日） 「第14回 まちづくりワイワイ祭2003」（芹が谷公園）に出店
 10月4日（土） 研修旅行 山梨県明野村（ハーブ石けん）
 8月頃 農地の確保 小山田、田中興業の畑を借用
 7月18～20日（金～日） 竹の伐採の仕事を受注。玉川学園、ヌボコ山（神社）
 6月29日（日） 第1回定期総会開催（町田市民フォーラム）、会員数35名。会報第1号発行 会長：向井弘善、副会長：田中良也・野島正美に。
 6月15日（日） 恩廻公園調節池完成記念式典のフリーマーケットに参加。
 5月30日（金） 「特定非営利活動法人いきいきまちだ」町田市に登記申請、この日を「特定非営利活動法人いきいきまちだ」成立の日とする。
 5月20日（火） 「特定非営利活動法人いきいきまちだ」東京都の認証を受ける。

認証前

2003年

5月24日 （土） 研修旅行 たんぽぽ寮（相模湖町南畑）
 4月5～6日 （土・日） まちださくらまつり出店
 3月21日 （金） 竹炭をダリア園へ贈呈
 2月22日 （土） 窯出し
 2月1～2日 （土・日） 竹の伐採（小野路・古賀竹林）

思い出の写真集

2005 年の活動



図師坂下日影公園での作業



総会



竹伐採作業



田園コンサートもありました



自然教室（日陰公園）

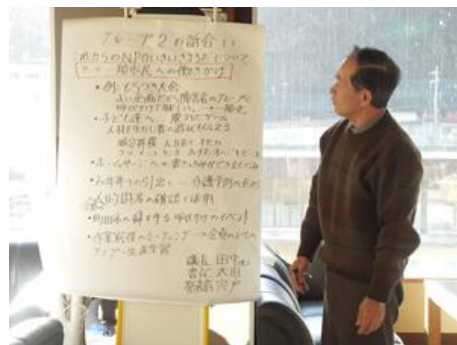


餅つき（竹の家の以前の姿が分かる）

2006 年の活動



石阪竹林垣根づくり



初めての宿泊研修旅行
グループに分かれて
討論の後発表しました
(鬼怒川)



パン焼きは大好評 (自然教室)

炭窯の位置を決めました。



2007 年の活動



木曽・石川宅の改修が会員の手によって始まりました。



公園雨水排水清掃作業



古賀竹林で竹炭用の竹の切り出し



川崎民家園で竹細工の研修



餅つきの傍ら折り紙教室

思い出の写真集

炭焼き窯づくり（2007年2月）



思い出の写真集

2008・9年の活動



忠生三小合同学習 (080922)



三ツ目山公園竹伐採作業 (081025)



忠生三小しめ縄づくり (081225)



町田の逸品&掘り出し市 (080302)



大人も子どもも遊びもまちだ展 (090719)



菜の花プロジェクト (091205)

思い出の写真集

2010・11年の活動

山崎小学校サマースクール支援（100825）



恒例の餅つき（101218）



石阪竹林垣根づくり（110421）



ハンマーナイフを購入（110620）



山崎小サマースクール支援（110825）

三ツ目山公園ふれあい祭り (101017)



伝統文化子ども教室



スイカ割り (070721)



竹かごづくり (080822)



考古資料室 (090718)



ソーメン流し (090822)



どんど焼き (100116)



パン焼き (101113)

思い出の写真集

さくらまつり



(050402)



(060409)



(070407)



(080405)



(100403)



(120407)

2012 年の活動



雪の中での伐採 (120218)



炭焼き準備 (120220)



そば試食会 (120421)



10周年記念パーティ (120526)



菜種の刈り取り (120614)



山崎小サマースクール (120828)

陸前高田市訪問 (120824)



2013 年の活動



炭焼き準備 (130112)



炭だし (130415)



畑作業 (130309)



宿泊研修旅行 (130313)



新事務所完成披露 (130518)

里山の植物

キンラン (左) ギンラン (右)



ジュウニヒトエ (左) サイハイラン (右上) イチリンソウ (右下)



タマノカンアオイ (左) コバノカモメヅル (右)

自然と伝統に触れる

(061220) 向井弘善

1. はじめに

標記のタイトルは私達のNPO（NPOいきいきまちだ）が受託した『伝統文化こども教室』のサブタイトルです。伝統文化こども教室というのは文化庁から委嘱を受けた（財）伝統文化活性化国民協会の事業で「次世代を担う子どもたちに対し、土・日曜日などにおいて学校、文化施設等を拠点とし、茶道、華道、日本舞踊、伝統音楽、郷土芸能などの伝統文化に関する活動を計画的、継続的に体験・修得できる機会を提供するもの」で実施者は毎年公募によって決められます。

2. 伝統文化とは

私達が実施したこども教室は一寸毛色が変わっていて「自然と密接に関わって生きた昔の人の生活や知恵を学ぶとともに自然および自然のかかわりの大切さを学ぶ」というもので、果たしてこれが伝統文化として継承されるべきものと認定されるかどうか懸念していましたが実施にゴーサインが出たのは主催者の頭のやわらかさを示すものと思われます。

実施内容は、自然散策と筍取り、農業体験、竹細工づくり、自然観察会、餅つき体験、炭焼き体験、竹林に遊ぶなど多彩なメニューを毎月1回10ヶ月に亘って実施するものです。現在、平成20年3月の終了目指して最終コーナーを回っているところです。

3. 子供達から元気を貰う

12月までに7回のイベントを実施し半年間に亘って子供達（小学校3～6年生）に接してきました。

人間が生きるためになくてはならないものの中に水、空気、食べ物などと同列に『ゲーム』の存在があるのには驚かされましたが、自然の中で走り回ったり、皆で作った野外料理を食べたり、無農薬のきゅうりを丸かじりしたりしているうちに本来の子供らしさを発揮してくれるようになりました。

ある親御さんからの礼状です。「・・・とても楽しい体験教室をしていただきありがとうございました。自分でとった野菜のことを何度も話してくれる娘の様子からなかなか普段触れることのない自然の中での喜びをうかがい知ることができ親達も嬉しかったです。」

4. 里山・里地を身近なものとして継承したい

こども教室で実施している個々のメニューは私達のNPOにとってすべて日常活動の中で実践していることばかりだったので自然体で実施することができました。

「自然の保護及び自然と人との調和を基に市民の健康づくりに資する」ことを目的にした当NPOにとって伝統文化こども教室のような活動は今後ますます重要な活動となると考えられます。

地球温暖化にともなって環境問題の大切さが叫ばれている今日、手入れされた里山・里地とそこで遊ぶ子供達の姿を何時までも残していきたいものです。

健康は自然からの贈りもの

<自然から健康と活力を貰う>

向井 弘善

自然も生きいき、人も生きいき

2003年に自然保護と健康増進を目的に設立した「NPOいきいきまちだ」のネーミングは人と自然、人と人との交流により生きや活力を増進すること即ち『自然も生きいき、人も生きいき』を象徴的に表現したものです。

山に登って大きく息を吸い込んだ時の健康感や充実感、深い森の中で感じる不思議な生気、美しい里山・里地で味わう安らぎや安堵感、殆どの人がこのような感覚を体験されていると思いますが「NPOいきいきまちだ」では里山を保護し安らぎの得られる場所と自然に触れる機会を増やして健康増進につなげる活動を行っています。

自然と伝統に触れる

標記のタイトルは「NPOいきいきまちだ」が受託した『伝統文化こども教室』のサブタイトルです。

伝統文化こども教室というのは文化庁から委嘱を受けた（財）伝統文化活性化国民協会の事業で「次世代を担う子どもたちに対し、土・日曜日などにおいて学校、文化施設等を拠点とし、茶道、華道、日本舞踊、伝統音楽、郷土芸能などの伝統文化に関する活動を計画的、継続的に体験・修得できる機会を提供するもの」で実施者は毎年公募によって決められます。

私達は「自然と伝統に触れる」というテーマの下に自然観察、農業体験、竹細工、炭焼き体験、野外料理や餅つきなどを通して自然と調和して生きた昔の人の生活と知恵を学ぶとともに自然及び自然とのかかわりの大切さを学ぶ教室を1年間に亘って実施しました。

ゲーム世代の子供達と自然で遊ぶ

子供達と接して最初に驚いたのは彼らの生活の中でゲームの占めるウエイトが異常に大きいことでした。

人間が生きて言うことはどんなことなのかを話し合い、生きるために無くてはならない物は何かを挙げさせたときに、空気、水、食べ物、着物と同列に重要な物として挙げられたのが『ゲーム』でした。

現にゲーム機は常に持ち歩き寸暇を惜しんで熱中する姿に接しました。

このような子供達が里山の自然の中でどんな反応をするのか？自然の中での遊びはゲームを超えられるのか？心配でしたが、子供達は自然の中で無農薬野菜をまる齧りしたり、焼き芋や野外料理づくりに積極的に参加したり、竹や木を切って遊び道具を作ったり、生き活きと野山を駆けたりしてゲームを忘れて熱中してくれるようになりました。

これは自然の持つ『癒しの力』に子供達の心が開いてくれたものと思われま

す。何よりも、伸び伸びとした子供達の楽しそうな表情そのものが本教室開講の狙いであり、我々の苦労を一瞬にして吹き飛ばしやりがいや喜びに変えてくれた錬金術だったのです。

里山の自然を残そう

このように人に癒しを与えてくれる里山・里地ですが昨今の荒廃は目を覆うばかりのがあります。

自然を上手に利用し、自然とうまく共存してきた昔の人に比べて生活様式の一変した現代社会では里山・里地は放置され萌芽更新も竹の伐採も行われず、美しい雑木林も竹の浸食を受けて無残な姿になっています。

それどころか里地の一角をなす田畑も高齢化と減反施策によって雑草地と化しているところが目立ちます。

そんな中でNPOいきいきまちでは微力ながら竹の繁茂を抑え美しい里山・里地を残す活動を行っています。

環境問題に対する関心の高まりを受けて地域行政や市民活動による公園整備や谷戸田の復活などと呼応しながらできることから一步一步着実に進めていくより仕方ありません。自分達で竹を切ったり萌芽更新をして直接的な自然保護活動を行うだけでなく次の世代を担う子供達に自然の素晴らしさと大切さを伝えていくことが何より重要だと思われま

自然の怒りと報復（地球温暖化問題から目を逸らせない）

人間は経済発展のために温室効果化ガスを撒き散らし、開発の名の下に森林の伐採や地球環境の破壊を進めていますがこれは自分で自分の首を絞める自殺行為に過ぎません。

地球温暖化は自然破壊や環境汚染に対する自然の怒りであり報復だと思われま

す。地球温暖化が叫ばれ始めて久しいが対策の必要性がコンセンサスを得て広く認識されるようになったのは1997年の京都議定書あたりからで先進国と開発途上国、対策の進んでいる国と遅れている国などによって様々な利害の対立があり地球全体として実効のある対策がまとまるまでにはかなり時間を要すると思われま

すが緊急の課題です。このままでは健康な生活どころか人間の生存そのものが危ぶまれます。

私達の身の回りの自然環境を守る活動は今や地球レベルで考えなくてはならない緊急の課題になっていることを認識しなければならないと感じる昨今です。

安らぎの里山・里地を目指して

(平成21年8月) 向井弘善

1. 自然の原風景「ふるさと」

[故郷] 高野辰之作詞・岡野貞一作曲／文部省唱歌 (六年)

兎 (うさぎ) 追いし かの山
小鮒 (こぶな) 釣りし かの川
夢は今も めぐりて、
忘れがたき 故郷 (ふるさと)

志 (こころざし) を はたして
いつの日にか 帰らん
山は青き 故郷
水は清き 故郷

この歌には日本の自然と一体になった心のよりどころとも言うべき「ふるさと」のイメージが象徴的に表現されています。

誰でも思い出に残ったり印象的な自然の情景を思い描くことができますがそれは自分が生まれ育った土地の風景であったり観光地であったり様々です。

何でもない山であったり、小川であったり、田んぼや畑である場合もありますが、何れも「心の休まる場所」「安心できる場所」「何時か帰りたい場所」ではないでしょうか。四季のある豊かな自然に恵まれた日本の自然の原風景が底流にあることは言うまでもありません。

それぞれの地域にそれぞれの自然や故郷がありますが現在の私にとって安らぎの場の1つは町田固有の風景を形作っている「谷戸」の姿です。

2. 「谷戸」との出会い

町田に住んで41年になりますが町田市は団地の多いベッドタウンとしての認識しかなく文字通り家と職場を行き来するだけの生活に明け暮れていました。それが8年前サラリーマンを卒業して地域中心の生活になった途端に「谷戸」という地名がやたらに目に付くようになりました。

「谷戸」と言うのは関東地方固有の表現で「やつ (谷) (谷津)」あるいは「やち (谷地)」を指すことばのようです。

現実的な表現としては「谷戸とは丘陵地の谷間で小川の源流域のことでそれに関連する森や沼地などをひっくるめて谷戸という」あるいは「谷戸とは、台地や丘陵地が湧水等の浸食によって複雑に刻み込まれた地形をいいます。本来の鶴見川本川や支川の源流域は谷戸が発達していて、雑木林からわき出た遊水と清流が特徴です。この清流を集めて古くから谷戸の水田 (谷戸田) が行われてきました。このような雑木林、清流、水田のある谷戸

の環境は、多様な生物が生息する地域です。地域によっては「谷津」「棚田」とも呼ばれています」のほうが 実態を良く表していると思われます。

町田に「何々谷戸」という地名が幾つあるか地図で追ってみました。30を越えてもまだ終わらないので途中でやめました。

確かに現在では開発が進んで車の往来の激しい交差点の名前としてのみ残っているものもありますが町田には大小4つの河川の源流があり素晴らしい谷戸の風景を残しているところも多々あります。

私たち NPO いきいきまちだの活動拠点の一つも鶴見川源流付近の「田中谷戸」にあります。

3. 安らぎのある里山・里地に憧れて

- 1) かぐや姫に恋をした
- 2) 子供達へ夢を託して
- 3) 農と緑の街づくり

4. 蛍の里づくり

6月18日の夜「蛍が数匹飛んでいる」と言う第一報が入りました。

私たちが手がけた「蛍の里づくり」の成果が出た感激の一瞬として全会員に知らせました。

今年の2月から4月にかけて鶴見川源流付近の田中谷戸で川の両岸を覆っていた雑草、つる草、熊笹、真竹などの駆除や川の清掃を行いました。

作業は述べ150人日に及ぶボランティア活動できつい作業もありましたが NPO いきいきまちだの会員だけでなく近所の人や興味のある人の飛び込み参加もあって大変な盛り上がりでした。

以下は作業している時に会員に流したメールの一端です。

『今日（2月18日）は蛍の里づくりの2回目の作業を行いました。

平日にもかかわらず地域の人を含め24名もの人が参加してくださいました。

作業が進むにつれて川筋がすっきりし、竹に覆われていた川沿いの山が散髪したようにさっぱりした姿に生まれ変わるのが楽しくて仕方がありませんでした。

田中さんが川に入って水棲動物の調査をしていましたがヤゴやトンボの幼虫に混じってお目当てのカワニナの姿を発見した時は思わず「やったー」という歓声が上がりました。

この分では蛍の発生は間近だと思われます。

夕方には、はっきりした川筋が現れたのを目ざとく見つけた白鷺の訪問を受けました。

自然の変化に対する動植物の反応の速さには驚くべきものがあります。

もしかしてこの夏にも朗報が聞けるかもしれません。

後1回くらい作業するとかなり見栄えがよくなるので第3回は3月4日（水）に行うことにして解散しました。』

「蛍が出た」と言う一報に続いて6月23日には200匹を超える蛍が乱舞し一大パーティーを展開して蛍出現が本物であることを実証してくれました。

「まちびと」2009年夏号(25頁)掲載されているのは活動の一部です。

5. 蛍の棲める環境を取り戻す

蛍の里づくりの目的は単に蛍だけを呼び戻して観賞して楽しむことではありません。

重要なのは蛍の棲める環境を取り戻し、多くの人にとって安心して憩える場、心身ともに健康を取り戻せる安らぎの場をつくることです。

蛍の棲める環境とは単にきれいな小川があると言うだけでは不十分です。

小川はコンクリートで固められていないこと、水が付近の田畑と導通していて泥鰌、蛙、タニシ、カワニナなどの生態系が広がっていること、田畑での農薬使用は最低限であること、付近の山はある程度の手入れがされていることなどの要件をクリアする必要があります。

昔はこのあたりでは蛍が乱舞していたと言う場所は少なくありません。

往時は田んぼと一体になった水路の手入れも、雑木林の萌芽更新も、竹の伐採とその利用も生活の一部として常態化し無意識の内に人間も自然の生態系の一員として自然と共生していたのではないかと思います。

私たちの活動拠点である田中谷戸もその典型的な場所でした。

今でも豊富な植物や狸、ハクビシン、モグラ、野うさぎなどの動物や小鳥類時々はおおたかの姿もみかけられるようです。

ここに蛍が帰ってくると自然環境として申し分がありません。

本当にこの環境を大切にしてい何時までも守り継いでいきたいものです。

6. 松茸談義——豊かさの中で失われていくもの

日本は経済大国になって豊かになり物質的には恵まれています但一方では失われているものも少なくありません。

松茸は戦中・戦後の食糧難時代に田舎では嫌と言うほど食べさせられた食品の1つです。現在では高級食材となりその主要産地は北朝鮮であり中国です。

経済発展に伴って生活様式も変化し薪や炭が電気、ガス、石油に代わり、カゴやざるも竹からプラスチックに置き換わりました。

人々は山に入って薪や落ち葉を集める必要はなく、木を切って炭を焼くこともなく、竹を切ってかごを作ることもなくなりました。

高齢化も伴って里山は荒れ裏の竹藪も放置されたままになりました。

松茸はこの環境変化に敏感に反応して姿を見せなくなりました。

考えてみると松茸をふんだんに食べていたころは貧しいながらも他人を思いやり助け合う気持ちが今よりも強かったように思われます。

現在は物質的に豊かになりましたがその実感は少なくもっと良い物が欲しい、もっと良い生活がしたいという欲望に追われて満足することのない飢餓状態が続き他人や親兄弟を思いやる余裕が持てない状態になっています。

将に、物質的な豊かさが心の豊かさを奪いつつあると言えます。

7. 山笑う

俳句の季語に「山笑う」という言葉があります。

私の持っている俳句歳時記によると冬山の肅条たる感じを「山眠る」というのにたいして、春の山の明るい感じを「山笑う」というのだそうです。

新緑の若葉が美しい5月ころの山の風情も好きですが新芽がふくらんでこれから躍動しようという希望に満ちた様子で山全体が微笑んでいるかのような風情を見せる春先の一瞬が大好きです。

この時期、田中谷戸などの里山を一日中眺めていても飽きませんし自分の体にも何か新しい力が注入されていく感じがします。

人間でもそうですが「笑う」という表現にもいろいろな意味があります。微笑、爆笑、苦笑、含み笑いなど色々な笑い方がありますが放置されている里山は苦笑しているように見えて仕方ありません。

私が「蛍の里づくり」で山の竹を切っているときの句です。

さわやかに 山が笑って 蛍棲み

8. 里山・里地の荒廃

「故郷の廃家」 犬童球溪訳詩

- 1) 幾年ふるさと、来てみれば、
咲く花鳴く鳥、そよぐ風
門辺の小川の、ささやきも、
なれにし昔に、変らねど、
あれたる我家に、
住む人絶えてなく。
- 2) 昔を語るか、そよぐ風、
昔をうつすか、澄める水、
朝夕かたみに、手をとって、
遊びし友人（ともびと）、いまいずこ、
さびしき故郷や、
さびしき我家や。

この歌はアメリカケンタッキー州出身の作曲家ウィリアム＝ヘイスの曲に熊本県出身の音楽教師犬童（イトドリ）球溪が訳詩をつけて明治40年に中等教育唱歌に選定されたもので、戦前は良く歌われていたが現在では殆ど歌われていない。

しかし、現在でも小笠原村が硫黄島で行っている鎮魂祭などで唄い継がれている。

一方、高齢化、少子化、都市への人口の集中化、減反政策、後継者不足、農業人口の減少等により段々畑や水田作りなどの集落の基本機能が維持できない地域が多発している。将に、「故郷の廃家」が現実のものになりつつあり別な意味でこの歌を声高に歌い継がねばならなくなってきました。

NPO いきいきまちだ 10 周年記念誌

2013 年 6 月 1 日発行

編集者 田中良也

発行者 向井弘善

発行所 NPO いきいきまちだ

事務所 〒194-0036 町田市木曽東 4-19-36

Tel/Fax 042-794-4200

<http://www.ikiikimachida.com>

©2013 ikiikimachida

